

武蔵野市における文化に関する施策・事業の整理(生涯学習分野追加資料)**1. 現在取り組んでいる文化に関する事業****○市民芸術文化講座**

市民生活をより豊かなものとするために日本の伝統文化に触れる機会として実施しています。市民芸術文化協会が、音楽や美術などの連続講座で実施しています(年に3講座程度)。

○市民会館における市民講座

知識と教養を深めることを目的に、美術講座などを開講しています。

○ふるさと歴史館(企画展示や文化財講座等)

市の歴史・文化を伝える施設として、古文書、民俗、考古資料、戦争関係資料などを収集、保存、研究、公開しています。

○地域自由大学における文化関連講座

地域の5つの大学と連携し、市民聴講・寄付講座など実施。武蔵野プレイスが事務局を担っています。

○子どもを対象とした体験事業(土曜学校等)**①土曜学校(リズム道場など)**

現代の子ども達に「生きる力」を育むために、学校休業日の土曜日に体験活動を中心にしています。音楽を活用した分野では、太鼓やパイプオルガンなど演奏体験をすることによって、表現力・創造力を引き出します。

②むさしのばやしチビッコ教室

市指定文化財であり、150年以上の歴史をもつ「むさしのばやし」を、後世に伝承し、保存するため、小学生を対象に行っています。市民文化祭「郷土芸能のつどい」でその成果を発表しています。

③市民会館子どもワークショップ

当初「子ども版画教室」として始められた事業です。現在は、陶芸、工作の2教室を実施しています。

○高齢者を対象とした事業**①いきいきセミナーにおける鑑賞講座など**

高齢者の生きがいづくりを目的とした連続講座の一環として、能の鑑賞などを行っています。

②老壮シニア「趣味の作品展」

いきいきセミナーの修了生等で構成される老壮連合会と共催で開催し、市民会館美術工芸室を活用して実施している「陶芸・工作」教室などのほか、同会会員による作品展を行っています。

2. 文化に関する事業の主な主体

(公財) 武蔵野生涯学習振興事業団

(1) 組織の概要

- 財団法人武蔵野スポーツ振興事業団（平成元年設立）が、平成 22 年、武蔵野プレイスの開設を含め、幅広く生涯学習振興事業を展開するために、財団法人武蔵野生涯学習振興事業団へと組織を見直し、さらに平成 23 年には、公益財団法人化しました。
- 平成 29 年 4 月 1 日現在で職員は 108 名です。そのうち 10 名が市派遣職員（OB 含む）、39 名が職員、59 名が嘱託職員となっています。

(2) 主な事業

- 組織としての主な事業は以下のとおりです。
 - ・生涯学習振興に関する事業
 - ・スポーツ振興に関する事業（武蔵野総合体育館、軟式野球場など）
 - ・この法人の目的の範囲内で行う武蔵野市の施設の管理運営に関する事業
- 上記にある生涯学習振興に関しては、武蔵野プレイスを指定管理しており、各種の生涯学習事業や文化体験事業をおこなっています。

(3) 今後の方向性<ヒアリングより>

- 現在、取り組んでいるのは市民の自発的な活動の支援であり、非営利の市民団体であれば、活動目的や内容も幅広く受け入れています。武蔵野プレイスの活用によって団体活動を活性化していくことを目指しています。
- 青少年活動支援事業は、施設スタッフと利用する子どもたちがいっしょに居場所をつくるのが目的だと考えています。子どもたちにとっては、家庭でも学校でもない第3の居場所になればよいと思います。
- 青少年活動支援事業の対象は20歳未満だが、利用している子どもたちは大人になれば、武蔵野プレイスの他の機能を利用してもらいたいと思っています。そのため、事業や日常的な利用を通じて、何らかのひっかかりが子どもたちにもたらされるとよいと考えています。